

2013年7月18日配付

2013年企画展（国際連携展示）  
へいほ  
**台湾平埔族の歴史と文化**

2013年9月12日（木）～11月26日（火）  
国立民族学博物館 企画展示場 A（本館2階）

台湾の国立台湾歴史博物館と共同で開催いたします。同展は、今年の3月から8月に台湾で先行開催され、本館では日本の観覧者に合わせて内容を再編して展示します。日本ではあまり知られていない台湾の先住民族である平埔（へいほ）族のみに焦点を当て、歴史や文化とその変容を最新の研究成果をもとに紹介します。



部落の住民が「パゼツヘ文化作業室」の前で撮影  
パゼツヘ族文化協会 提供



19世紀末クバラン族の婦女 出典：From Far Formosa.  
国立台湾歴史博物館 提供



北頭洋の夜祭（シラヤ族） 吉貝要文史工作室 提供

## 【展示構成】

### 1) イントロダクション「平埔族とは誰か」

企画展の主題である平埔族のみならず、台湾について基本的な知識なども含め、台湾の民族の構成と其中での平埔族の位置づけに関する基本的な情報を紹介します。

### 2) 「歴史の奔流の中の平埔族」

時間の経過とともに平埔族の社会的な立ち位置の変化が進むさまを紹介します。16世紀以降の大航海時代に西洋によって再発見された台湾において、主として北～西部平地域に先住していた平埔族の祖先の人々が、オランダ、スペイン、清朝中国、日本、中華民国といった外来権力主体によって、社会や文化に変容を余儀なくされていった過程を、歴史資料の解説を中心にしながら展示します。

### 3) 「平埔族を見つめる」

平埔族の物質文化を通して、平埔族の先住民的要素と漢族化の過程を大きく、生活文化と信仰とに分けて紹介します。同時に、本館所蔵資料の収集にたずさわった鳥居龍蔵と伊能嘉矩の収集調査を簡潔に紹介し、学術調査を通じた平埔族のすがたも示します。

### 4) 「現代を生きる平埔族」

平埔族アイデンティティの覚醒の過程を紹介し、民族の文化やエスニシティが生成されていく現状を紹介して、展示全体のまとめとします。

- 展示名 企画展「台湾平埔族の歴史と文化」
- 会期 2013年9月12日(木)～11月26日(火)
- 場所 国立民族学博物館 企画展示場A(本館2階)
- 時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)
- 無料入館日 9月14日(土)、9月16日(月・祝)、11月3日(日・祝)、  
11月16日(土)、11月17日(日)
- 休館日 水曜日
- 観覧料 一般:420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)  
( )は20名以上の団体料金/リピーターは団体料金を適用
- 主催 国立民族学博物館/国立台湾歴史博物館(台湾)
- 後援 公益財団法人交流協会/台北駐日経済文化代表処
- 協力 天理大学附属天理参考館
- お問い合わせ 国立民族学博物館 06-6876-2151(代)

- 実行委員長 野林厚志
- 標本資料 ・展示資料85点  
・パネル37点

## 【関連催し物】

### ウィークエンド・サロンー研究者と話そう

- 10月13日(日)14時30分～15時30分
- 野林厚志(国立民族学博物館・教授)
- 本館展示場(ナビひろば)
- 申込不要(要観覧料) ウィークエンド・サロンー研究者と話そう

### みんなくゼミナール

台湾において、早くから漢族の影響を強くうけ、慣習、言語、物質文化が大きく変化していった平埔族の人々は、近年、歴史史料や博物館資料を手がかりに自分たちの歴史を見つめなおし、民族アイデンティティを再興させています。今回のゼミナールでは平埔族の歴史と文化を紹介し、エスニシティが再生される過程を考えます。

- タイトル「台湾平埔族の歴史と文化」
- 11月16日(土)
- 13時30分～15時00分
- 野林厚志(国立民族学博物館・教授)
- 国立民族学博物館 講堂
- 申込不要(定員450名)



実行委員長 野林厚志(国立民族学博物館・教授) [写真左]

台湾の原住諸民族に関する人類学的研究と、人間と動物との関係をめぐる社会動物論の2足のわらじをはく。台湾の研究では物質文化を通じて民族の分類やアイデンティティのありかたを考える。